

GIFTPAD

AI推進を阻む壁と、 解決に向けた泥臭いアプローチ

Tahara Keisuke

2026-06-19

田原 啓介

取締役CTO

@tahara_keisuke (たらぽんた)

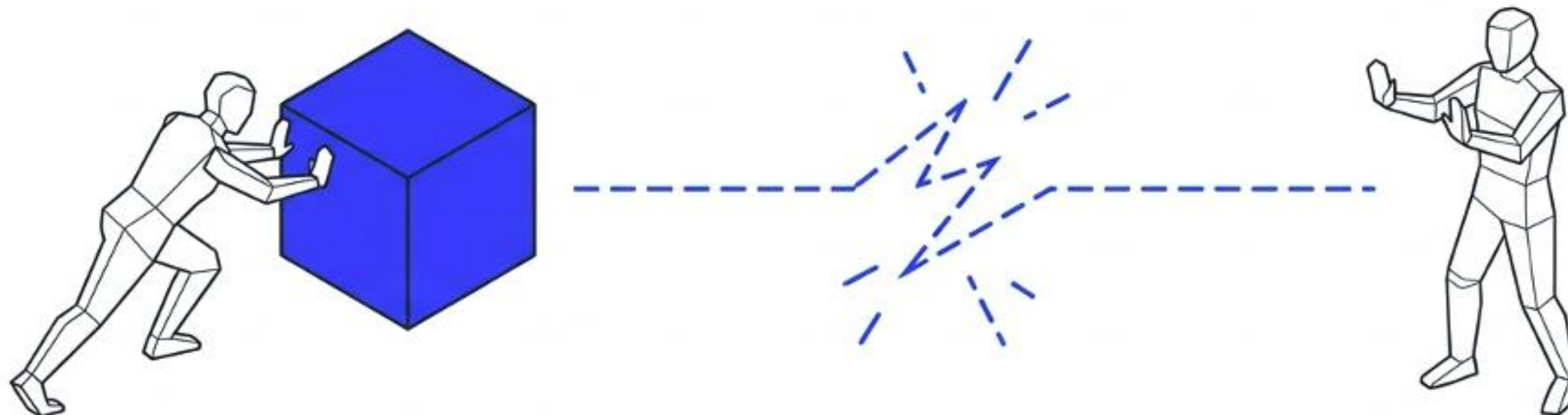


2005年よりシステム会社にて基幹系ソフトウェア、医療系・電鉄系の組込みソフトウェアの開発に従事。

その後、WEBサイト・システムへの開発に携わり、2015年にGiftpadへ参画。eギフトのシステム開発から地域通貨アプリ『region PAY』の開発など、Giftpadの主要なシステム・ソリューションの開発運用を統括。

最近、MacBook Proから軽量なWindowsに乗り換えたい気分

「技能作っただけで、全然使ってもらえへん…」



現場のリアルな壁（推進側の空回り）

- 「SKILL作ってたけど、全然使ってもらえへん…」
- 「GEMを作って質疑を見せつけたら『便利だね！』と言われて、そこで終わる…」

本質的な問題

売る側が心の底から「良いもの」と信じていても、アプローチが「正論の押し売り」になっている。結果として、無意識の拒絶を生んでいる。

知見の5レベルと、超えられない谷

⚠ 多くの人がここで完全に立ち止まる

Lv1 ヲ癡楡ヅ

「AIすごい
流行ってるよね」

Lv2 (理解)

「文章とか要約して
くれるんでしょ？
知ってるー」

Lv3 (使用?)

「へえ、すごい
ね！便利だね！
使ってみるわー」

Lv4 (便利さ)

「議事録をAIに
させたら30分
から5分になったぜ」

Lv5 ヲ獯瞽ヅ

「え、まだ使ってない
の？仕事のやり方、
変えたほうがいいよ」

傭人削減への懸念 AIの脅威に怯える人々

俺はAIより早く出来る派

「ビジネスロジックが頭に叩き込まれていて、AIに負けないから不要！！！！」
長年培ってきた自分の専門性や優位性がAIのツールに脅かされることへの恐れ

AIの回答を信じたら死ぬ派

「ハルシネーションがあるんでしょ？使えねえじゃん。はあ」
過去の不正確な回答による失敗体験への恐怖

俺の仕事に関係ない派

「俺のやってることはAIじゃできないから結構です。」
最初から関心・危機感がない

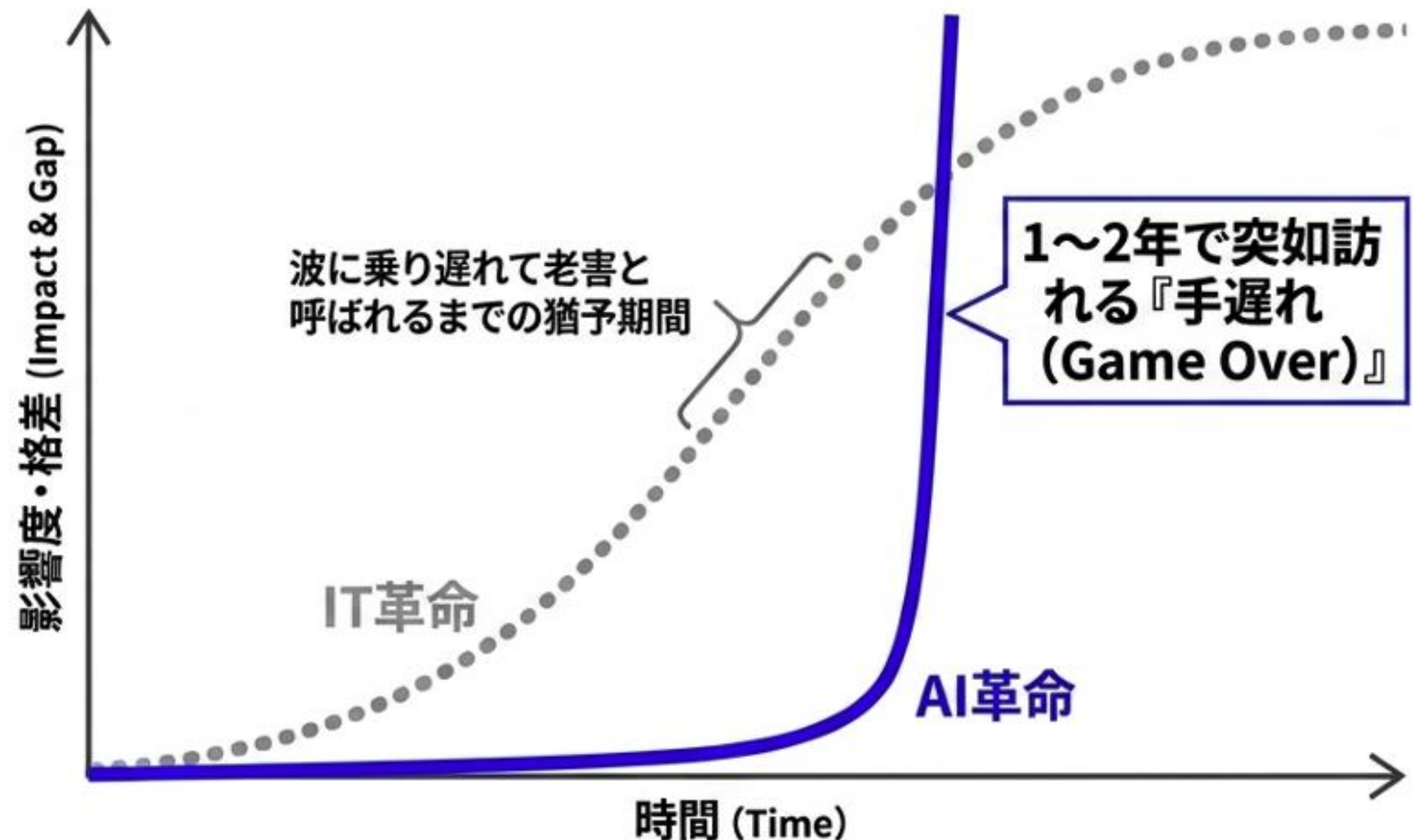
革命のスピードと、 「手遅れ」への残酷なタイムライン

かつての常識

IT革命の時は、適応できなくても周囲がカバーできる「猶予」があった。

現在の残酷な現実

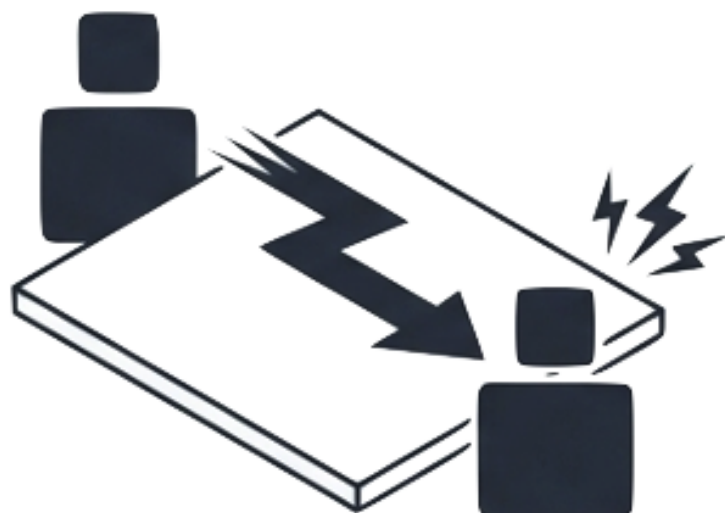
AI革命では猶予が圧倒的に短い。気がついた時には取り返しがつかないほどの生産性の差が開き、その「圧倒的な差」がさらに非利用者のやる気を削ぐという悪循環。



「寄り添う」 泥臭いアプローチ

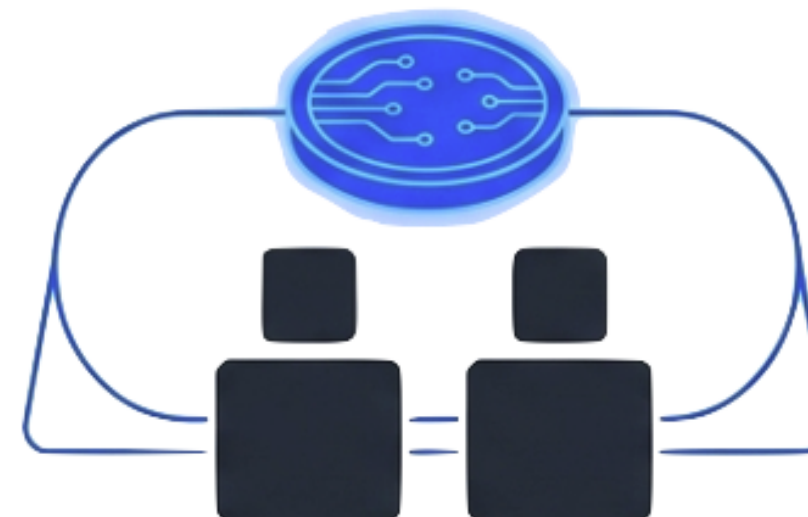
「自分でもイケるかも」という小さな成功体験を、手遅れになる前に1対1で積ませる草の根活動

× NG: 正論の押し売り



「なんで使わないの？」と対面から正論を浴びせる。

○ OK: 泥臭い寄り添い



相手の課題を理解し、横に座って一緒に解決する。

■ エンジニアへ

ペアプロ感覚で。「この処理、いつもどう書いてます？ ちょっとAIに聞きながら一緒にやりませんか？」とプロンプトから共闘する。

■ 営業へ

「来週の提案書、AIにたたき台作らせてみましょう。私が壁打ち相手になりますよ」とゼロイチのハードルを下げる。

■ バックオフィスへ

抱えている面倒な事務作業を、隣の席と一緒にAI化してみる。

推進で気をつけたいポイント

良かれと思ってやりがちな、逆効果になりうる落とし穴

トップダウンの強制

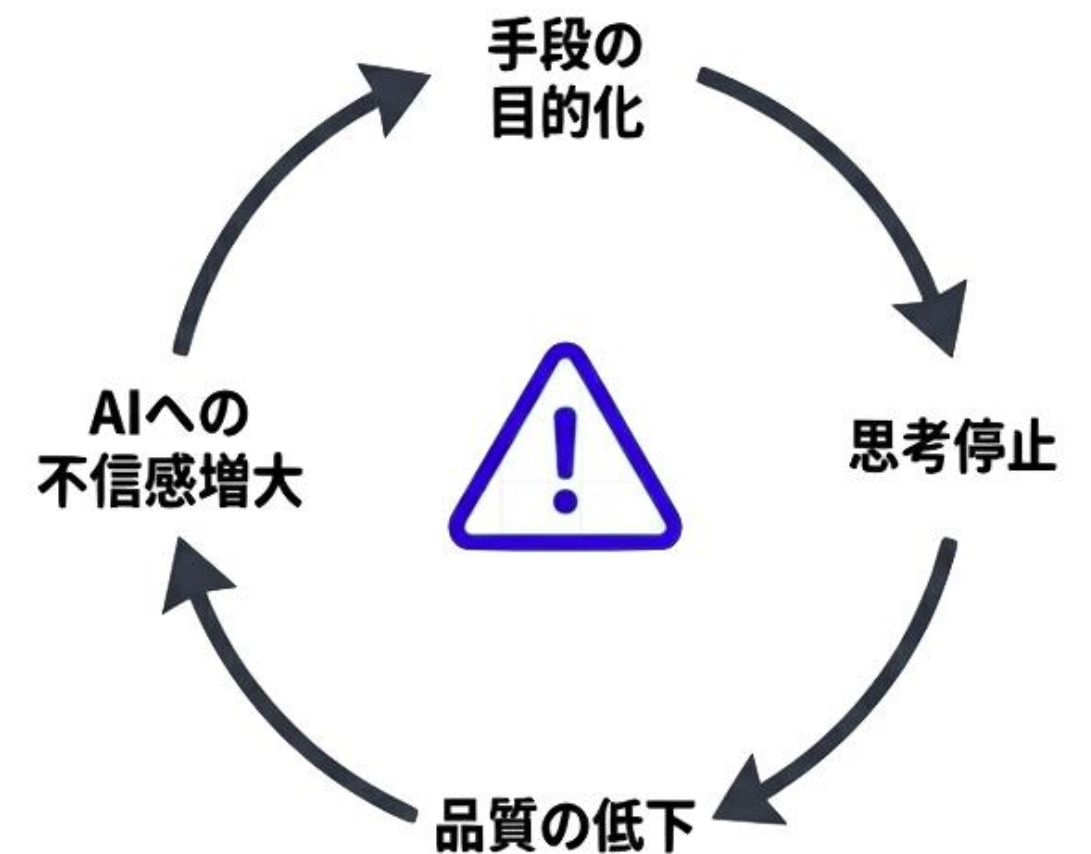
「社長がハマったから全社で使え！」という号令、
きっかけは良いが、現場の課題と乖離してやらされ仕事になる。

トークン消費量をKPIにする

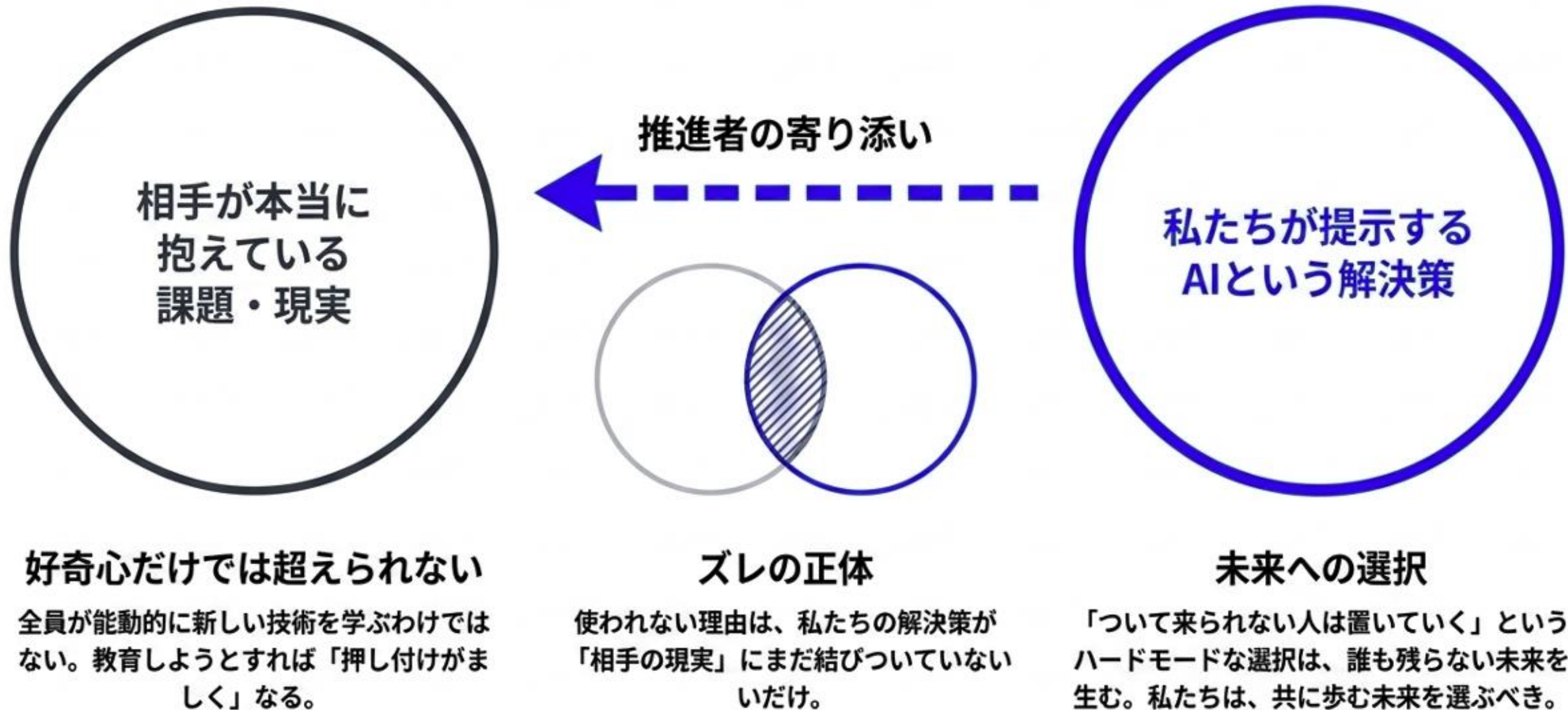
トークン消費量や利用回数を評価指標にする。
本来の「生産性向上」を見失い、無駄にAIを叩いてKPIを
稼ぐようになる。

AIの答えを鵜呑み

「AIがそう言ったから」が成果物の根拠になる。
事実確認、自身の“考える”を放棄してしまい、
自ら「自身の不要」を体現してしまう。



相手の「現実」と「解決策」を 結びつける



相手の「現実」と「解決策」を 結びつける

会議メモが毎回しんどい

議事録の作成を任せる

仕様理解に時間がかかる

既存仕様を食わせて“質問相手”にする

レビューが重い

初回レビュー観点の洗い出しをさせる

問い合わせ対応が多い

回答ドラフトを作らせる

「AIで何ができますか？」ではなく、
「今、何がしんどいですか？」から始める。

明日から出来る、一歩

推進する立場の人へ（15分だけ）

「AIを使おう！」と全体に呼びかけるのを一度やめる。
今週一人だけ、困っていそうな同僚に「何か手伝えることありますか？」と声をかけ、その人の課題解決に15分だけAIを使って寄り添う。

まだ使っていない人へ（1つだけ）

「AIを勉強しなきゃ」と気負う必要はない。
自分が一番「面倒くさい」と感じる作業を1つだけ思い出し、AIが得意な同僚に「これ、楽になったりする？」と聞いてみる。

最後に余談：エンジニアとしての自分

長く開発をやってきた私自身、
AIの方が速く、バグも少ない現実を前に、
自分の優位性が一瞬で失われたような感覚になることがあります。

でも、だからこそ今は、
「AIに置き換えられない自分」ではなく、
「AIを使って次に何をする自分になるか」を考えています。

皆さんは、この変化にどう向き合っていますか？
また後ほどの懇親会の際にお話させていただければ幸いです。

Thank You